

## I. 単体自己資本比率を算出する場合における事業年度の開示事項

信用金庫法施行規則第132条第1項第5号二等の規程に基づき、自己資本の充実の状況について金融庁長官が別に定める事項(金融庁告示第8号)(以下「第3の柱」という)に則り、金庫の直近の2事業年度における財産の状況を開示するものです。

なお、当金庫は「中小・地域金融機関向けの総合的な監督指針」で定めのあるバーゼルⅢ第3の柱の開示において、「標準的手法」「国内基準」を採用し、自己資本比率を算出しております。

## 1. 自己資本の構成に関する開示事項

(単位:百万円)

項 目	2021年度	2022年度
<b>コア資本に係る基礎項目(1)</b>		
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	49,164	50,231
うち、出資金及び資本剰余金の額	1,054	1,062
うち、利益剰余金の額	48,172	49,232
うち、外部流出予定額(△)	63	63
うち、上記以外に該当するものの額	-	-
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	155	128
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	155	128
うち、適格引当金コア資本算入額	-	-
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-	-
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-	-
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の45パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-	-
<b>コア資本に係る基礎項目の額…(イ)</b>	<b>49,319</b>	<b>50,360</b>
<b>コア資本に係る調整項目(2)</b>		
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)の額の合計額	111	243
うち、のれんに係るものの額	-	-
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	111	243
繰延税金資産(一時差異に係るものを除く。)の額	-	-
適格引当金不足額	-	-
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	-	-
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	-	-
前払年金費用の額	167	409
自己保有普通出資等(純資産の部に計上されるものを除く。)の額	-	-
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	-	-
少数出資金融機関等の対象普通出資等の額	-	-
信用金庫連合会の対象普通出資等の額	-	-
特定項目に係る10パーセント基準超過額	-	-
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関するものの額	-	-
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関するものの額	-	-
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	-	-
特定項目に係る15パーセント基準超過額	-	-
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関するものの額	-	-
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関するものの額	-	-
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	-	-
<b>コア資本に係る調整項目の額…(ロ)</b>	<b>278</b>	<b>652</b>
<b>自己資本</b>		
<b>自己資本の額((イ)-(ロ))…(ハ)</b>	<b>49,041</b>	<b>49,707</b>
<b>リスク・アセット等(3)</b>		
信用リスク・アセットの額の合計額	298,075	319,832
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	△2,177	△1,425
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△2,177	△1,425
うち、上記以外に該当するものの額	-	-
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8パーセントで除して得た額	16,062	16,174
信用リスク・アセット調整額	-	-
オペレーショナル・リスク相当額調整額	-	-
<b>リスク・アセット等の額の合計額…(ニ)</b>	<b>314,137</b>	<b>336,007</b>
<b>自己資本比率</b>		
<b>自己資本比率((ハ)/(ニ))</b>	<b>15.61%</b>	<b>14.79%</b>

(注) 自己資本比率の算出方法を定めた「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出しております。

## 2.定量的な開示事項

### (1) 自己資本の充実度に関する事項【単体】

(単位：百万円)

	2021年度		2022年度	
	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額
イ. 信用リスク・アセット、所要自己資本の額の合計	298,075	11,923	319,832	12,793
①標準的手法が適用されるポートフォリオごとのエクスポージャー	267,651	10,706	290,215	11,608
現金	-	-	-	-
ソブリン向け	1,296	51	777	31
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	58,690	2,347	72,275	2,891
法人等向け	57,772	2,310	59,935	2,397
中小企業等向け及び個人向け	68,421	2,736	70,273	2,810
抵当権付住宅ローン	10,351	414	9,788	391
不動産取得等事業向け	18,167	726	18,120	724
三月以上延滞等	451	18	429	17
取立未済手形	63	2	69	2
信用保証協会等による保証付	4,075	163	4,283	171
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	-	-	-	-
出資等	9,831	393	9,411	376
出資等のエクスポージャー	9,831	393	9,411	376
重要な出資のエクスポージャー	-	-	-	-
上記以外	38,529	1,541	44,850	1,794
他の金融機関等の対象資本等調達手段のうち対象普通出資等及びその他外部TLAC関連調達手段に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー	9,147	365	7,140	285
信用金庫連合会の対象普通出資等であってコア資本に係る調整項目の額に算入されなかった部分に係るエクスポージャー	3,438	137	3,438	137
特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー	2,900	116	11,156	446
総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を保有している他の金融機関等に係るその他外部TLAC関連調達手段に関するエクスポージャー	-	-	-	-
総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を保有していない他の金融機関等に係るその他外部TLAC関連調達手段のうち、その他外部TLAC関連調達手段に係る5%基準額を上回る部分に係るエクスポージャー	-	-	-	-
上記以外のエクスポージャー	23,043	921	23,114	924
②証券化エクスポージャー	7	0	-	-
証券化				
STC要件適用分	-	-	-	-
非STC要件適用分	7	0	-	-
再証券化	-	-	-	-
③リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー	32,593	1,303	31,041	1,241
ルック・スルー方式	32,593	1,303	31,041	1,241
マンドート方式	-	-	-	-
蓋然性方式(250%)	-	-	-	-
蓋然性方式(400%)	-	-	-	-
フォールバック方式(1,250%)	-	-	-	-
④経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	-	-	-	-
⑤他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	△2,177	△87	△1,425	△57
⑥CVAリスク相当額を8%で除して得た額	-	-	-	-
⑦中央清算機関関連エクスポージャー	0	0	0	0
ロ. オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8%で除して得た額	16,062	642	16,174	646
ハ. 単体総所要自己資本額(イ+ロ)	314,137	12,565	336,007	13,440

(注) 1. 所要自己資本の額=リスク・アセット×4% (自己資本比率規制における国内基準)

2. 「エクスポージャー」とは、資産(派生商品取引によるものを除く)並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額のことです。

3. 「ソブリン」とは、中央政府、中央銀行、地方公共団体、我が国の政府関係機関、土地開発公社、地方住宅供給公社、地方道路公社、外国の中央政府以外の公共部門(当該国内においてソブリン扱いになっているもの)、国際開発銀行、国際決済銀行、国際通貨基金、欧州中央銀行、欧州共同体のことです。

4. 「抵当権付住宅ローン」とは、住宅ローンの中で代表的なものとして、抵当権が第1順位かつ担保評価額が十分満たされているものを指します。

5. 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「ソブリン向け」、「金融機関及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」、「国際決済銀行等向け」を除く)においてリスク・ウェイトが150%になったエクスポージャーのことです。

6. 「上記以外」は、ポートフォリオごとの区分に分類することが困難なもので、主なものは仮払金、前払費用、固定資産、繰延税金資産等です。

7. 当金庫は「基礎的手法」によりオペレーショナル・リスク相当額を算定しています。

<オペレーショナル・リスク相当額(基礎的手法)の算定方法>

$$\frac{\text{粗利益(直近3年間のうち正の値の合計額)} \times 15\%}{\text{直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数}}$$

8. 単体総所要自己資本額=単体自己資本比率の分母の額×4%

(2)信用リスクに関する事項(リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー及び証券化エクスポージャーを除く)

イ.信用リスクに関するエクスポージャー及び主な種類別の期末残高

〈地域別・業種別・残存期間別〉

(単位：百万円)

地域区分 業種区分 期間区分	信用リスクエクスポージャー期末残高									
			貸出金、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランス取引		債券		デリバティブ取引		三月以上延滞エクスポージャー	
	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度
国内	941,492	923,512	525	660	256,440	207,987	2,945	3,119	1,650	1,622
国外	73,246	73,585	-	-	73,246	73,585	-	-	-	-
地域別合計	1,014,738	997,098	525	660	329,686	281,572	2,945	3,119	1,650	1,622
製造業	41,686	43,231	50	218	7,996	7,296	-	-	29	5
農業、林業	325	307	-	-	-	-	-	-	-	-
漁業	87	68	-	-	-	-	-	-	39	37
鉱業、採石業、砂利採取業	599	297	-	-	501	200	-	-	-	-
建設業	36,716	36,287	28	25	900	400	-	-	107	193
電気・ガス・熱供給・水道業	6,921	6,421	-	-	6,921	6,421	-	-	-	-
情報通信業	1,964	2,194	-	-	1,302	1,501	-	-	-	-
運輸業、郵便業	8,104	8,233	-	-	1,702	1,301	-	-	-	0
卸売業、小売業	24,644	24,740	119	94	3,809	3,207	-	-	15	20
金融業、保険業	361,225	379,217	100	88	16,780	14,448	-	-	48	31
不動産業	41,696	41,341	32	27	6,413	6,412	-	-	1,229	1,159
物品賃貸業	183	185	-	-	-	-	-	-	-	-
学術研究、専門・技術サービス業	2,354	2,417	-	-	-	-	-	-	0	0
宿泊業	123	168	-	-	-	-	-	-	-	-
飲食業	4,151	4,065	-	-	-	-	-	-	29	24
生活関連サービス業、娯楽業	5,538	6,004	59	65	-	-	-	-	0	0
教育、学習支援業	2,488	2,890	-	-	-	-	-	-	-	-
医療、福祉	18,440	17,714	-	18	-	-	-	-	25	25
その他のサービス	14,328	14,185	117	115	3,551	3,577	-	-	95	70
国・地方公共団体等	242,238	199,252	-	-	205,263	159,591	-	-	-	-
個人	102,744	103,216	16	7	-	-	-	-	29	52
その他	98,173	104,657	-	-	74,543	77,213	2,945	3,119	-	-
業種別合計	1,014,738	997,098	525	660	329,686	281,572	2,945	3,119	1,650	1,622
1年以下	109,101	209,018	156	348	54,207	16,945	447	24	-	-
1年超3年以下	304,219	157,601	40	132	30,701	22,612	23	68	-	-
3年超5年以下	51,437	87,709	158	17	24,873	23,910	166	593	-	-
5年超7年以下	45,355	41,266	9	-	16,282	11,015	409	218	-	-
7年超10年以下	100,275	123,607	133	117	25,061	29,126	207	152	-	-
10年超	269,235	272,747	28	45	133,614	131,049	3	3	-	-
期間の定めのないもの	135,113	105,147	-	-	44,944	46,913	1,688	2,057	-	-
残存期間別合計	1,014,738	997,098	525	660	329,686	281,572	2,945	3,119	-	-

(注)1. オフ・バランス取引は、デリバティブ取引を除いています。

2. 「三月以上延滞エクスポージャー」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上延滞している債務者に係るエクスポージャーのことです。

3. 上記の「その他」は、裏付となる個々の資産の全部又は一部を把握することや、業種区分に分類することが、困難なエクスポージャーです。具体的には現金、投資信託、固定資産、繰延税金資産、未収利息等が含まれます。

4. CVAリスクおよび中央清算機関関連エクスポージャーは含まれておりません。

5. 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

ロ.一般貸倒引当金、個別貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額

(単位：百万円)

	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高	
			目的使用	その他		
一般貸倒引当金	2021年度	80	155	-	80	155
	2022年度	155	128	-	155	128
個別貸倒引当金	2021年度	1,766	2,081	15	1,751	2,081
	2022年度	2,081	1,968	16	2,064	1,968
合計	2021年度	1,847	2,237	15	1,831	2,237
	2022年度	2,237	2,097	16	2,220	2,097

## 八. 業種別の個別貸倒引当金及び貸出金償却の額等

(単位: 百万円)

	個別貸倒引当金										貸出金償却	
	期首残高		当期増加額		当期減少額				期末残高		2021年度	2022年度
	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	目的使用		その他		2021年度	2022年度		
					2021年度	2022年度	2021年度	2022年度				
国内	1,766	2,081	2,081	1,968	15	16	1,751	2,064	2,081	1,968		
国外	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<b>地域別合計</b>	<b>1,766</b>	<b>2,081</b>	<b>2,081</b>	<b>1,968</b>	<b>15</b>	<b>16</b>	<b>1,751</b>	<b>2,064</b>	<b>2,081</b>	<b>1,968</b>		
製造業	118	124	124	129	1	0	117	123	124	129	-	-
農業、林業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
漁業	32	30	30	28	-	-	32	30	30	28	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
建設業	45	57	57	62	-	10	45	47	57	62	-	-
電気・ガス・熱供給・水道業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
情報通信業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
運輸業、郵便業	2	4	4	5	-	-	2	4	4	5	-	-
卸売業、小売業	4	264	264	245	-	3	4	261	264	245	-	-
金融業、保険業	24	43	43	28	1	-	22	43	43	28	-	-
不動産業	831	856	856	819	-	-	831	856	856	819	-	-
物品賃貸業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学術研究、専門・技術サービス業	-	11	11	-	-	-	-	11	11	-	-	-
宿泊業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
飲食業	7	28	28	29	2	-	4	28	28	29	-	-
生活関連サービス業、娯楽業	316	285	285	240	-	-	316	285	285	240	-	-
教育、学習支援業	3	-	-	0	-	-	3	-	-	0	-	-
医療、福祉	309	307	307	308	9	-	300	307	307	308	-	-
その他のサービス	56	55	55	59	0	1	56	53	55	59	-	-
国・地方公共団体等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
個人	12	12	12	12	-	-	12	12	12	12	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>合計</b>	<b>1,766</b>	<b>2,081</b>	<b>2,081</b>	<b>1,968</b>	<b>15</b>	<b>16</b>	<b>1,751</b>	<b>2,064</b>	<b>2,081</b>	<b>1,968</b>	<b>-</b>	<b>-</b>

(注) 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

## 二. リスク・ウェイトの区分ごとのエクスポージャーの額等

(単位: 百万円)

リスク・ウェイト区分(%)	エクスポージャーの額			
	2021年度		2022年度	
	格付適用有り	格付適用無し	格付適用有り	格付適用無し
0%	2,436	331,991	1,936	231,780
10%	-	62,793	-	57,544
20%	11,808	285,340	80,217	70,708
35%	-	29,755	-	28,113
50%	90,144	1,431	21,831	1,272
75%	-	19,785	-	22,733
100%	6,256	93,576	5,424	97,025
150%	-	159	132	61
250%	-	3,367	-	13,062
1,250%	-	-	-	-
その他	-	73,018	-	75,842
<b>合計</b>		<b>1,011,865</b>		<b>707,686</b>

(注) 1. 格付は適格格付機関が付与しているものに限ります。

2. エクスポージャーは信用リスク削減手法適用後のリスク・ウェイトに区分しております。

3. コア資本に係る調整項目となったエクスポージャー、CVAリスクおよび中央清算機関関連エクスポージャーは含まれておりません。

### (3) 信用リスク削減手法に関する事項

#### 信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー

(単位：百万円)

ポートフォリオ	信用リスク削減手法	適格金融資産担保		保 証		クレジット・デリバティブ	
		2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度
信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー		2,069	2,068	69,677	71,345	-	-

(注)当金庫は、適格金融資産担保について簡便手法を用いています。

### (4) 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

(単位：百万円)

	2021年度	2022年度
与信相当額の算出に用いる方式	カレントエクスポージャー方式	カレントエクスポージャー方式
グロス再構築コストの額の合計額	-	-
グロス再構築コストの額の合計額及びグロスのアドオン合計額から担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額を差し引いた額	-	-

(単位：百万円)

	担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額		担保による信用リスク削減手法の効果を勘案した後の与信相当額	
	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度
①派生商品取引合計	1,826	2,059	1,826	2,059
(i) 外国為替関連取引	1,549	1,632	1,549	1,632
(ii) 金利関連取引	55	75	55	75
(iii) 金関連取引	-	-	-	-
(iv) 株式関連取引	222	351	222	351
(v) 貴金属(金を除く)関連取引	-	-	-	-
(vi) その他コモディティ関連取引	-	-	-	-
(vii) クレジット・デリバティブ	-	-	-	-
②長期決済期間取引	-	-	-	-
合 計	1,826	2,059	1,826	2,059

## (5) 証券化エクスポージャーに関する事項

### イ. オリジネーターの場合(信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャーに関する事項)

当金庫は、有価証券投資の一環として証券化エクスポージャーを購入しており、オリジネーターとしての証券化取引は行っていません。

### ロ. 投資家の場合(信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャーに関する事項)

#### ① 保有する証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳

##### a. 証券化エクスポージャー

(単位: 百万円)

	2021年度		2022年度	
	オン・バランス取引	オフ・バランス取引	オン・バランス取引	オフ・バランス取引
証券化エクスポージャーの額	36	-	-	-
(i) カードローン	-	-	-	-
(ii) 住宅ローン	36	-	-	-
(iii) 自動車ローン	-	-	-	-

b. 再証券化エクスポージャーは保有していません。

#### ② 保有する証券化エクスポージャーの適切な数のリスク・ウェイトの区分ごとの残高及び所要自己資本の額等

##### a. 証券化エクスポージャー

(単位: 百万円)

リスク・ウェイト 区分(%)	エクスポージャー残高				所要自己資本の額			
	2021年度		2022年度		2021年度		2022年度	
	オン・バランス取引	オフ・バランス取引	オン・バランス取引	オフ・バランス取引	オン・バランス取引	オフ・バランス取引	オン・バランス取引	オフ・バランス取引
0%～ 15%未満	-	-	-	-	-	-	-	-
15%～ 50%未満	36	-	-	-	0	-	-	-
50%～ 100%未満	-	-	-	-	-	-	-	-
100%～ 250%未満	-	-	-	-	-	-	-	-
250%～ 400%未満	-	-	-	-	-	-	-	-
400%～1,250%未満	-	-	-	-	-	-	-	-
1,250%以上	-	-	-	-	-	-	-	-
(i) カードローン	-	-	-	-	-	-	-	-
(ii) 住宅ローン	-	-	-	-	-	-	-	-
(iii) 自動車ローン	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>合計</b>	<b>36</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>0</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>

(注) 1. 所要自己資本の額=エクスポージャー残高×リスク・ウェイト×4%

ただし、「リスク・ウェイト区分」「エクスポージャー残高」「所要自己資本の額」は、いずれも信用リスク削減効果等を勘案後の内容であるため、上記の計算式と一致しない場合があります。

2. 「1,250%」欄の(i)～(iii)は、当該額に係る主な原資産の種類別の内訳です。

b. 再証券化エクスポージャーは保有していません。

#### ③ 保有する再証券化エクスポージャーに対する信用リスク削減手法の適用の有無

信用リスク削減手法の 適用の有無	なし
---------------------	----

## (6) 出資等エクスポージャーに関する事項

### イ. 貸借対照表計上額及び時価等

(単位: 百万円)

区 分	2021年度		2022年度	
	貸借対照表計上額	時 価	貸借対照表計上額	時 価
上 場 株 式 等	7,322	7,322	7,206	7,206
非 上 場 株 式 等	3,138	3,138	3,138	3,138
<b>合 計</b>	<b>10,461</b>	<b>10,461</b>	<b>10,345</b>	<b>10,345</b>

(注) 上場株式等、非上場株式等のいずれについても、投資信託は含んでいません。

### ロ. 出資等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

(単位: 百万円)

	2021年度	2022年度
売 却 益	262	279
売 却 損	5	-
償 却	-	-

(注) 売却益、売却損、償却のいずれについても、投資信託は含んでいません。

## 八. 貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位: 百万円)

	2021年度	2022年度
評価損益	691	871

(注) 評価損益の額には、投資信託の評価損益は含んでおりません。

## 二. 貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位: 百万円)

	2021年度	2022年度
評価損益	-	-

## (7) リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに関する事項

(単位: 百万円)

	2021年度	2022年度
ルック・スルー方式を適用するエクスポージャー	73,018	75,842
マンドート方式を適用するエクスポージャー	-	-
蓋然性方式(250%)を適用するエクスポージャー	-	-
蓋然性方式(400%)を適用するエクスポージャー	-	-
フォールバック方式(1,250%)を適用するエクスポージャー	-	-

- (注) 1. ルック・スルー方式とは、当該エクスポージャーの裏付けとなる個々の資産の信用リスク・アセットを算出し、足し上げる方式です。  
 2. マンドート方式とは、ファンドの運用基準に基づき最も信用リスク・アセットが大きくなる資産構成を想定し、個々の資産の信用リスク・アセットを足し上げる方式です。  
 3. 蓋然性方式とは、当該エクスポージャーの裏付けとなる資産のリスク・ウェイトの加重平均が250%(400%)を下回る蓋然性が高い場合は250%(400%)のリスク・ウェイトを適用する方式です。  
 4. フォールバック方式とは、上記以外の場合に1,250%のリスク・ウェイトを適用する方式です。

## (8) 金利リスクに関する事項(銀行勘定金利リスク: IRRBB)

(単位: 百万円)

項番	金利ショックシナリオ	イ		ロ		ハ		ニ	
		△EVE				△NII			
		当期末	前期末	当期末	前期末	当期末	前期末	当期末	前期末
1	上方パラレルシフト	15,150	17,534	1,264	2,145				
2	下方パラレルシフト	0	0	34	85				
3	スティープ化	12,602	13,593						
4	フラット化								
5	短期金利上昇								
6	短期金利低下								
7	※上記のうち最大値	15,150	17,534	1,264	2,145				
		ホ				へ			
		当期末				前期末			
8	自己資本の額	49,707				49,041			

- (注) 1. 金利リスクの算定手法の概要等は「定性的な開示事項」(本誌P51~52)の項目に記載しています。  
 2. △(デルタ)EVEとは、金融機関が保有するポジションの経済的価値の、金利ショックに対する減少額として定義されます。  
 …経済価値ベースの金利リスク指標  
 △(デルタ)NIIとは、金利ショックが、基準日から12ヵ月間の純金利収入(NII:受取利息と支払利息の差)に与える影響として定義されます。  
 …収益ベースの金利リスク指標

## (9) オペレーショナル・リスクに関する事項

【基礎的手法による算出】

(単位: 百万円)

	2021年度	2022年度
オペレーショナル・リスク相当額	1,284	1,293
オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額	16,062	16,174

(注) 「基礎的手法」を用いて算出するオペレーショナル・リスク相当額は、1年間の粗利益に15%を乗じて得た額の直近3ヵ年の平均値です。